

【平成28年度 社会入試（中学） ◎第1回・地理・問6】

1 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

城北中学校ではクラブ活動がさかんで、どのクラブでも夏休みにあたる8月は合宿シーズンとなります。なかには、学校内の施設を利用して合宿を行うクラブもあります。学校内での合宿ですので、食事はみんなで食堂で取ります。そんな合宿中の心の安らぎである食事現場にお邪魔してきました。2日分の食事のメニューを見てみると、以下の通りでした。

8月〇日（朝食）

「(1)ご飯, 味噌汁, 豚しゃぶサラダ, 肉団子, 温泉卵, 味付け(2)海苔, (3)鮭の塩焼き, 納豆, ジュース」

8月〇日（昼食）

「温玉牛丼, 冷やしミニたぬきうどん, 鶏肉のネギ塩焼き」

8月〇日（夕食）

「ご飯, (4)味噌汁, (5)豚カツ&うずら串フライ, 切り(6)昆布煮, ジャーマンポテト」

8月△日（朝食）

「ご飯, 味噌汁, 豚肉生姜焼き, 厚焼き(7)玉子, 味付け海苔, インゲンのピーナッツ和え, スパゲティサラダ, (8)ジュース」

8月△日（昼食）

「カレーライス, コーンサラダ, (9)鶏の唐揚げ, 味噌汁」

8月△日（夕食）

「マーボー(10)豆腐丼, 蓮根とひじきサラダ, (11)ちくわと(12)小松菜のいため物, 中華スープ」

わずか2日間のメニューに過ぎませんが、食材の産地を調べていくことで、日本や世界の農業のすがたがみえてきます。受験生みなさんも日々の食事を取る際に、「この食品の原材料や産地はどこなのかな？」という好奇心を持って下さいね！

問6 下線部(5)について、次の表は2014年における豚、肉用牛、乳用牛の飼育頭数の上位五位の道県名と、日本全体に占める都道府県ごとの生産割合(%)を表しています。豚、肉用牛、乳用牛の組み合わせとして適切なものを、下のア～カから一つ選び、記号で答えなさい。

注：表中の生産割合(%)は、小数点以下第2位を四捨五入したものです。

	①		②		③	
1位	鹿児島県	14.0%	北海道	57.0%	北海道	19.9%
2位	宮崎県	8.8%	栃木県	5.1%	鹿児島県	13.0%
3位	千葉県	7.1%	岩手県	3.2%	宮崎県	9.7%
4位	北海道	6.6%	熊本県	3.2%	熊本県	5.1%
5位	群馬県	6.4%	群馬県	2.8%	岩手県	3.6%

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
①	豚	豚	肉用牛	肉用牛	乳用牛	乳用牛
②	肉用牛	乳用牛	豚	乳用牛	豚	肉用牛
③	乳用牛	肉用牛	乳用牛	豚	肉用牛	豚

(農林水産省『平成26年畜産統計』より作成)

<解説>

豚、肉用牛、乳用牛の飼育頭数の上位5道県と日本全体に占める都道府県ごとの生産割合(%)を記載したものを並記し、家畜名の正しい組合せを問う設問です。非常にオーソドックスな設問で、参考書や塾のテキストをしっかりとこなしてきた受験生たちには平易な設問だったでしょう。それ故に正答率も8割でした。

基礎的知識の定着を確認させ、表形式の並びで問うことで受験生の応用力を試すという側面を持っています。

城北の社会入試は、難問が含まれている場合もありますが、基本的にはこのような基礎的設問を取りこぼさないことが合格者の共通点となっています。

また、地理・歴史・公民分野からまんべんなく点数を取り、その中で1つないしは2つ強い科目があると高得点に繋がります。

【平成28年度 社会入試（中学）詳細】

【地理分野】

第1回の地理は、城北中学の夏休みの合宿における食事メニューから、主に農業分野に関連する内容を問う問題でした。基本的な内容を中心（一部、時事問題も含みます）としていたため、参考書や塾のテキストをしっかりと理解していれば得点できたと思われ、問12を除いて、正答率も高く推移していました。これから城北中学を受けるみなさんにとっては、第1回のレベルに達しているかどうかを測る設問だと思いますので、是非、晩秋～年末年始に解いてみて下さい。ポイントは基礎的知識が定着しているかどうかだと思います。

第2回は、伊勢志摩、九州・沖縄、洞爺湖のサミットに関連した地域を取り上げて出題しました。各地の盛んな産業に関する問題は良く出来ていました。一方、雨温図やグラフの読み取りが必要となる問題を得点できたかが全体の出来を左右していました。そして、沖縄県と鹿児島県の県境、洞爺湖町的位置を問う問題はさらに正答率が低くなっていました。ここが平均的な成績を収めた受験生と高得点の受験生の違いとなっていました。知識の詰め込みでなく、図表を的確に読み取る力をつけ、学習の際には、地図を活用することをお勧めします。

第3回は、日本の河川を題材にして出題をしました。リード文をよく読めば、たくさんヒントがあった問題でした。問題文や注釈までよく読むことが得点につながっています。さらに、河川の長さや流域面積だけに着目するのではなく、河川がどこを流れているかということまでが要求されました。日本地図が正確に頭に入っている受験生は高得点となりました。各都道府県の産業の特徴を様々なデータから判断できるように、普段から数値にふれて、用語と数値を関連づけて確かな知識を身につける学習をしてください。

【歴史分野】

第1回は、難易度としては標準的な問題を用意し、歴史用語を一問一答的に解答するだけでなく、時代背景を理解していること、歴史の推移を俯瞰する視点を持っていることなどを重視して出題しました。また、政治史だけではなく、文化的な観点からも出題し、幅広い歴史の知識を問いました。

結果としては考えていたよりも正答率が下がってしまいました。既習内容だと思っていたが、重箱を突くような出題になってしまった嫌いがあります。その点は改善していきたいと思います。今後の勉強法としては、歴史の全体像を俯瞰して、想像できるようになってから、一つ一つの歴史的事項を学習していくようにしましょう。点と点が線で繋がる学習を心がけていくことが大切です。

第2回は、全体的な問題の難易度を上げて、出題しました。年代配列問題や正誤問題、文化の問題や資料問題、社会経済に関する問題など、幅広い分野から出題し、歴史を政治史だけでなく、多方面から理解しているかを問いました。

結果としては、全体的に難易度を上げたにも関わらず、予想よりもよく出来ていました。歴史を線で理解し、さらに歴史的事項の細かいことまで丁寧に整理できていました。今後の学習方法としては、政治史だけでなく、文化・社会経済史などにもしっかりと目を通すことが必要かと思います。

第3回は、全時代を通史で出題しました。問1～問15までの問題は、古代史～近世史までの範囲から出題をしました。歴史人物を解答しながら、基本事項を正確に理解しているかを試す問題です。また、問2・問5は歴史事項を発生時代順に並び替えて解答するので、単に事項の丸暗記では解答ができません。時代の流れを理解しながら、勉強に取り組む姿勢が要求されます。問16からは近代史の問題になりますが、難易度を変えて、2点配点としました。問16のA・Bの人物は自由民権運動で活躍した中心人物ですが、大隈重信の「隈」は誤答が多かったようです。歴史用語を漢字で正確に書く勉強をしてください。

【公民分野】

第1回は憲法を中心に、国会の構成と役割について出題した。国会についての憲法の条文を読み込んでおけば、解答できる問題である。

問1・2・3は、国家機関としての国会の位置づけとその構成、またその選挙制度の根拠となっている「公職選挙法」を答えさせるものであった。いずれも基本的な問題である。

問4は、二院制の長所である「慎重」「抑制」「補充」機能を小学生レベルの文章で出題した。問5は、比例代表制についての正誤問題で、小学生にはやや難しかったのではないかと。正解はウで、参議院の比例代表制では、候補者、政党のいずれにも投票することができる。問6は、「一票の格差」が憲法第14条の「法の下での平等」に反するというものである。「法」のみを答えさせる問題であった。問7・8は、国会議員の身分保障と任期に関するもので、教科書で憲法の条文を読んでいれば易しい問題である。問9は国会の役割を問うもので、内閣と裁判所の役割と区別できるかどうかのポイントであった。「弾劾裁判」「予算の作成」という選択肢で迷うところであったと思う。問10は、「衆議院の優越」の理由を問うものであった。解散の制度が国民の意見をよりよく反映できる制度であることがわかっていれば、解答は容易である。問11は、両院協議会についての出題であった。やや細かい知識を要するもので、やや難であった。

第2回は18歳選挙権などの選挙制度が改正されたので良く学習されていると思い、出題しました。具体的には、選挙制度の移り変わりや「一票の格差」の問題などの基本的な事項を尋ねました。正答率も高く、予想通り良く学習していたと思います。

「合区」の内容も良く理解されていました。

第3回は時事問題を中心としながら公民の基礎事項を尋ねるという形式で出題しました。良く対策されていたみたいで正答率は高かったです。

本校では、必ず時事問題が出題されます。

普段からニュースに関心を持って接し、考えていないとわからない問題もあります。社会の動きに好奇心を持って下さい。

公民分野は、公民の基礎事項＋時事問題で毎年出題しています。しっかり勉強すれば高得点が可能です。